

■会議報告

The 5th Asian Synchrotron Radiation Forum in Saga

鎌田雅夫 (佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター)

第五回アジアフォーラムが2004年3月16、17日の両日、佐賀県鳥栖市で開催された。本フォーラムは、今まで、神戸、浦項、姫路、広島で行なわれてきたアジアにおけるシンクロトロン光フォーラムシリーズの第五回目に相当するもので、佐賀県主催、放射光学会、佐賀大学、鳥栖市の共催のもとで行なわれることになり、佐賀県立九州シンクロトロン光研究センターの上坪所長を委員長とする組織委員会と、佐賀大学シンクロトロン光応用研究センターの鎌田を委員長とする実行委員会のもとで開催された。

いままでのフォーラムがアジアのシンクロトロン光施設関係者間の親睦と情報交換の面が主であったのに対比して、今回はさらに新たな特徴を持った会議として運営され、参加登録者は170名以上と盛況であった。その特徴の一つは、シンクロトロン光の産業応用に焦点を置いたプログラム編成が行なわれ、アジアの施設報告はポスター報告という形を取った点である。プログラムでは、① Industrial Use, Analysis and Growth of New Materials, ② Microfabrication, LIGA and MEMS, ③ Drug, Medicine

and Imaging, ④ Facility Activity and New Projects とセッション分けがされ、活発な議論が行なわれた。また、アジアの放射光施設に限らずに欧米の放射光施設での利用成果が含まれた点も特徴である。Franz J. Homes (CAMD) “Industrial Application of Synchrotron Radiation: A Not Complete History and Some Thoughts for the Future”, Rupert C. C. Pererra (ALS) “Application of Soft X-ray Emission and Absorption Spectroscopy at ALS for Researching New Materials”, Markus Arendt (ANKA) “Mass Fabrication of Microstructured Parts with SR-Requirements to Throughput, Cost, and Quality”, Anders Svensson (Novo Nordisk A/V) “The Use of Synchrotron Radiation in Pharmaceutical Drug Development at Novo Nordisk A/V)”の招待講演が行なわれ、世界的な視点からの議論の場となった。さらに、専門家に限らず広く門外漢も参加しやすいように、幾つかの講演に対して、別室で、囲碁将棋の解説のように日本語による説明が行なわれた。



写真1 古川佐賀県知事の挨拶 (横は長谷川佐賀大学学長と松下放射光学会長)

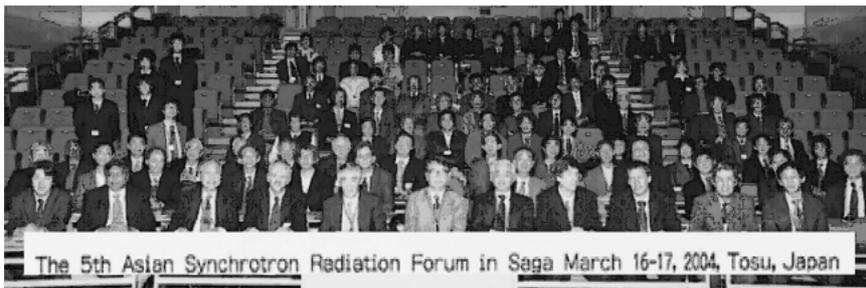


写真2 フォーラム発表者ならびに会議スタッフ



写真3 発表を聞き入る聴衆



写真4 フォーラム後の吉野ヶ里遺跡ツアー参加者

会議では、古川佐賀県知事、長谷川佐賀大学学長、松下放射光学会会長の挨拶の後、上坪所長の“New synchrotron light facility in Saga”と題した講演で、佐賀県に出来る新しい放射光施設の詳しい報告が行なわれた。また、Franz J. Homes (CAMD) によって放射光の産業利用に関するオーバービュー的な特別講演が行なわれた。各セッションでは、日本を含むアジアの各放射光施設を利用した成果が、相次いで報告され、また将来展望についての熱心な議論が行なわれた。

夜のパーティーは、地元鳥栖市の牟田市長ならびに上坪組織委員長の挨拶の後、富増佐賀LS光源チームリーダーの乾杯で始まった。また、ポスターセッションもその時間を利用して行なわれ、日本はじめアジアの全放射光施設(計画)から計23のポスター発表が行われた。翌朝には、会場からバスで10分程度のところで建設中の佐賀県立九州シンクロトン光施設の見学ツアーが行なわれた。

2日の午後は、施設活動や将来計画に関するセッションであり、Herbert Moser (Singapore, SLS), Yaw-Wen Yang (Taiwan, NSRRC), Takehiko Ishii (Thailand, NSRC), Garry Foran (Australian SR Program), Xu Hongjie (Shanghai, SIAT), Sami M. Mahmood (SESAME, Yarmouk Univ., Jordan) などからの発表が行なわれた。なお、アフターコンファレンスプログラムとして、吉野ヶ里遺跡めぐりと日本料理屋でのお別れ会も行なわれ、有意義な2日間の会議があったという間に終了した。

最後に関係者の方々には、多大のご協力を頂いたことをこの場を借りて御礼申し上げます。なお、会議のプログラムなどの詳細は、<http://www.slc.saga-u.ac.jp/saga2004.html>に掲載していますので、興味のある方はご参考にして頂ければ幸いです。

(2004年8月1日受理)